

博美のロマンス♥BOX①

NEW YORK DUST

ニューヨークダスト



小林博美

フラワーコミックス

博美のロマンス♥BOX①

ニューヨーク ダスト



もくじ

ニューヨーク ダスト 5

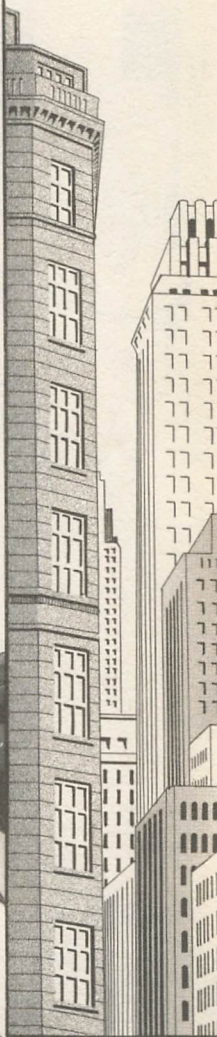
よごと
夜毎のエデン 105

銀の雨音 147



NEW YORK DUST

ニューヨークダスト





こんなデカイ
チャンス
夢みたいだぜ

なんの座
キーンと
してきた

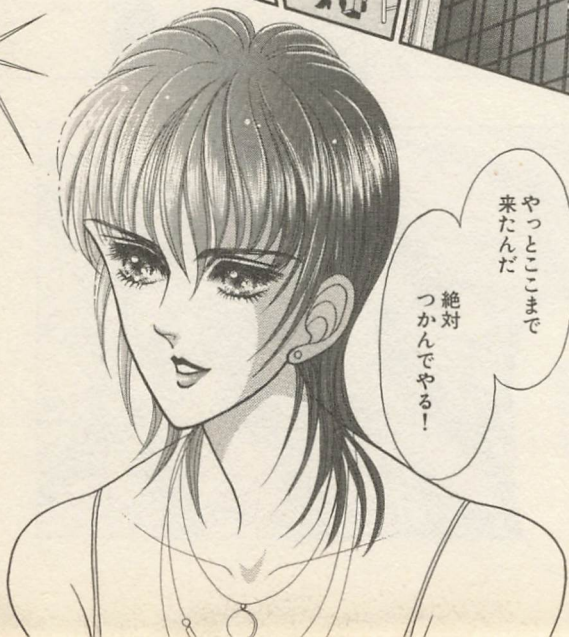
この最終審査で
認められりや
即デビューだ

よく
ここまで
残れたよな

ニューヨークへ来て
7年――

やっとここまで
来たんだ

絶対
つかんでやる！



遅刻よ
ジョー!
もう始まるわ
オーディション



俺がいなくたって
審査くらい
できるだろが

我が社の敏腕
プロデューサーが
そんなんじや…



ちよつと…

また昼間から
お酒の匂い!
何考えてるのよ

ゆうべの酒が
まだ残ってんだよ
ルシア

眠いしさ
まったく…

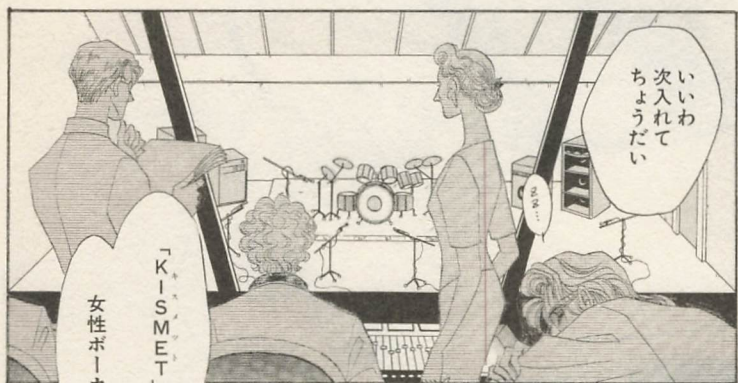


ジョー!!

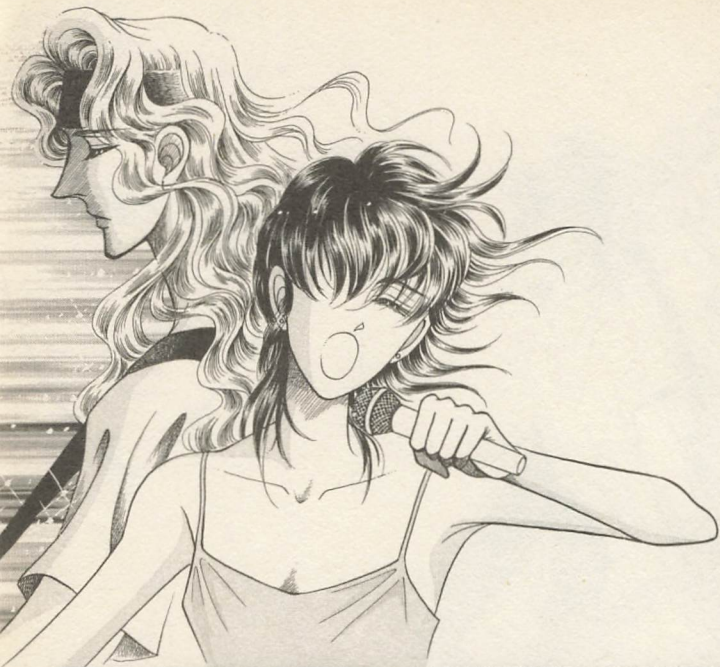
はいはい社長
仕事ね
仕事

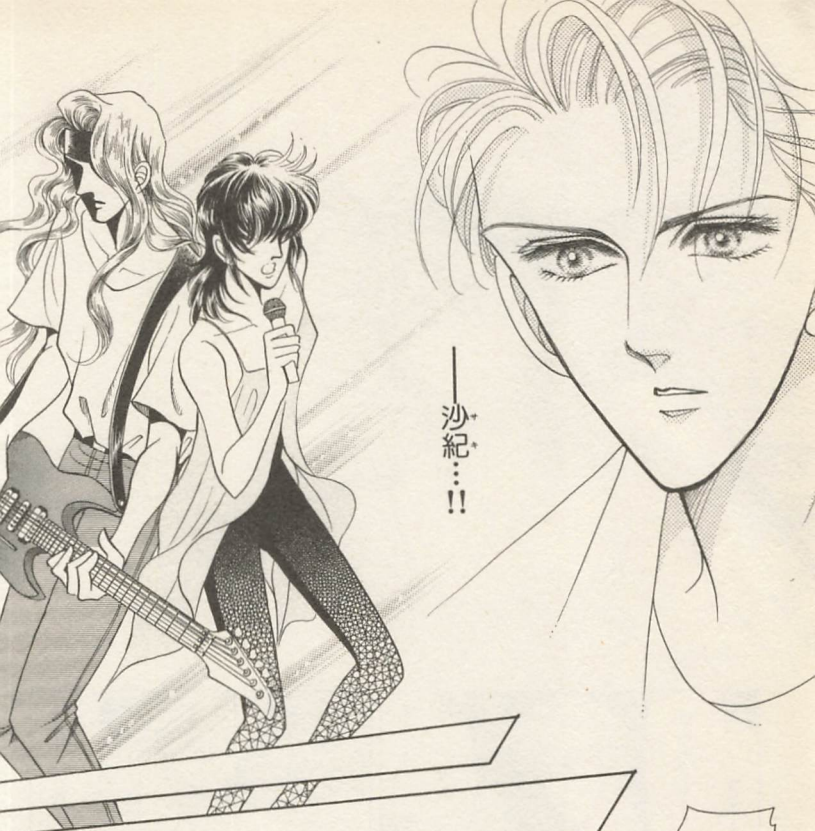


今のところ
合格ラインはこの
「DESIRE」ね

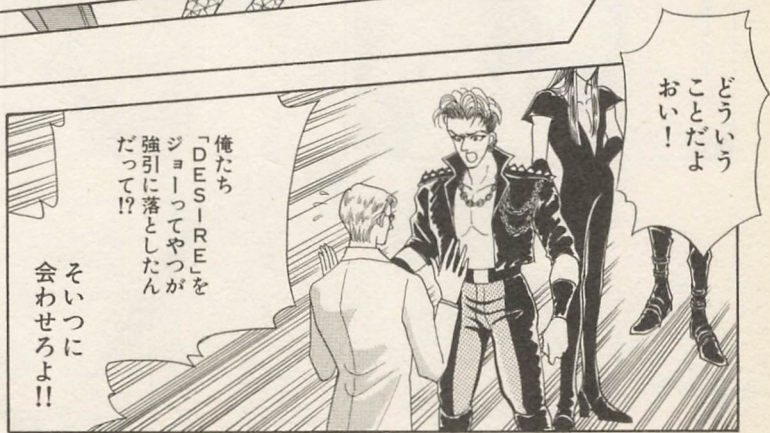








—沙紀…!!



どうい
うこと
だよ
おい!

俺たち
「DESIRE」を
ジョーってやつが
強引に落としたん
だって!?

そいつに
会わせろよ!!



ヤロウ!

放っとけ

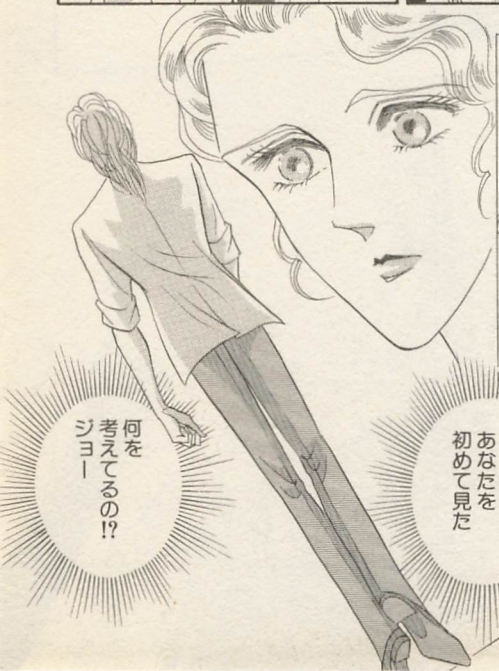


てめェか!



社長!
ジョー!

なんの騒ぎ?



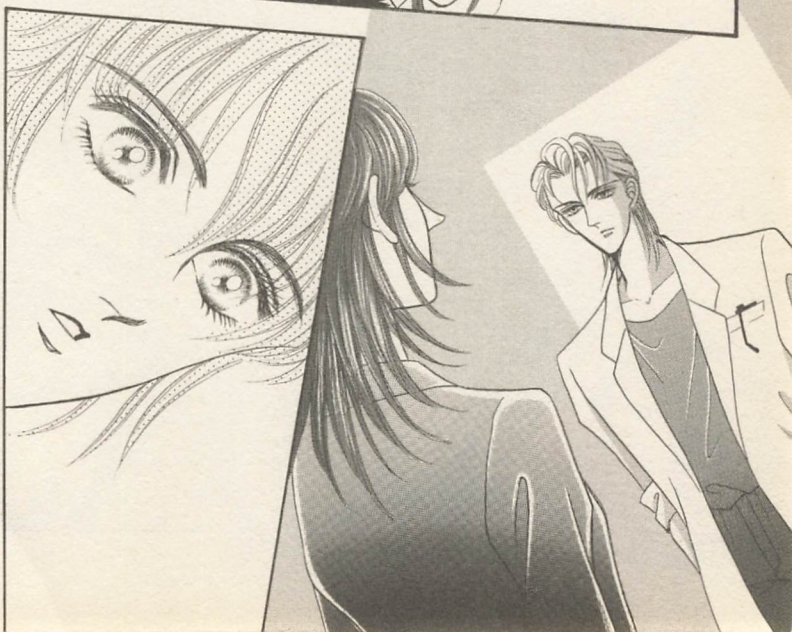
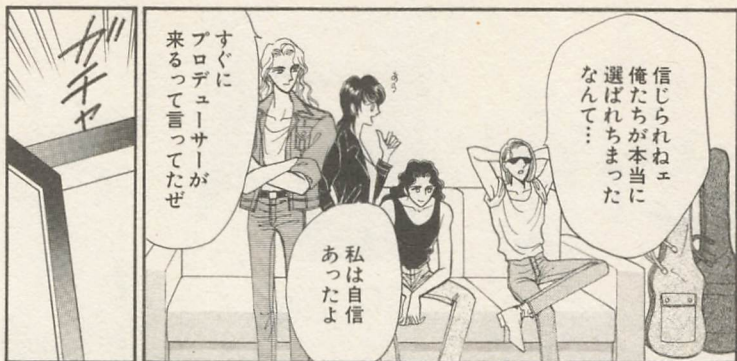
何を
考えてるの!?
ジョー

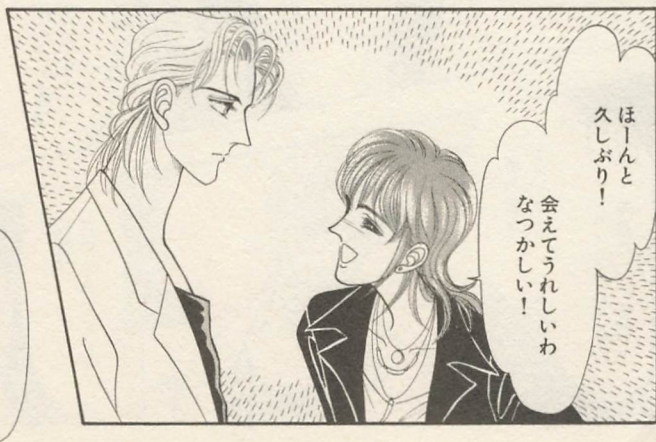
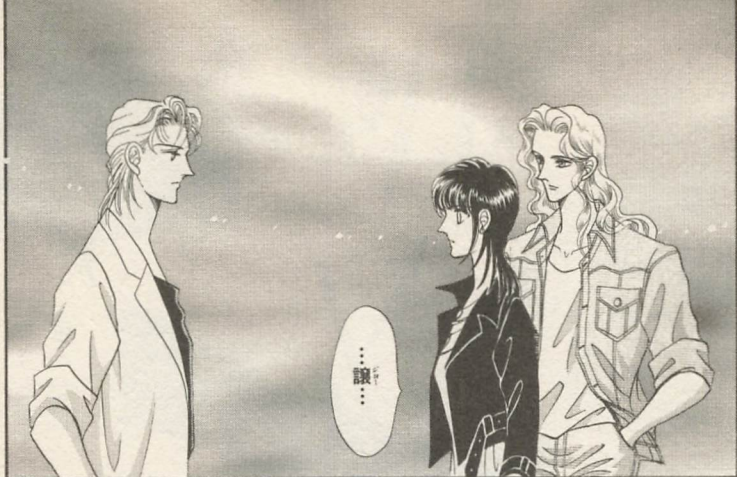
こんな強引な
あなたを
初めて見た

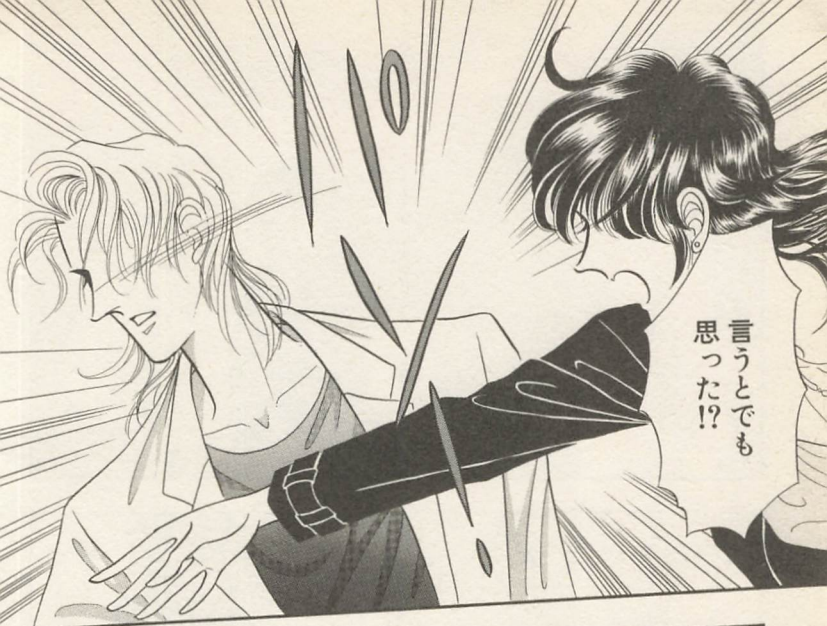
まったく…



このままで
すむと思うなよ
覚えてろ!







言うだけでも
思った!?



からかいに
来たんなら
帰ってよ!

私たちこれから大事な
用があるんだから!

おい
サキ?

…待てよ



挨拶は
このくらいにして

仕事の話
を
しないか
「KISMET」の
未来についてだ



俺が君らの
プロデュースをする
羽柴だ
よろしく



あいつの父親は
この国の人よ
母親と生まれは
日本だけど
———よりによって
あいつが
プロデューサーだ
なんて……!

……



彼が……

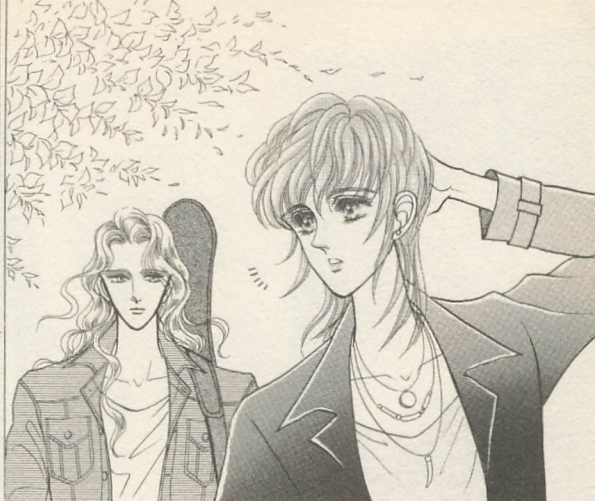
「JOE・H」

ここ3年で
あのレコード会社から
立て続けに5組もの
ミュージシャンを
スターダムにのし上げた
すご腕プロデューサー

まさか日本人とは
思わなかったなア



.....



一緒に暮らしてた



.....
恋人同士だったわ



私捨てられたのよ



日本でバンド組んでたのよ私たち

7年前
家出同然で
アメリカへ来たの
私が15で譲が23

彼は
ギタリストで..
だけど私たち
2年と
もたなかった



俺はサキを
離したりしない
絶対に

ロニー…

俺たちは
こわれない

「KISSMET」は
成功するよ



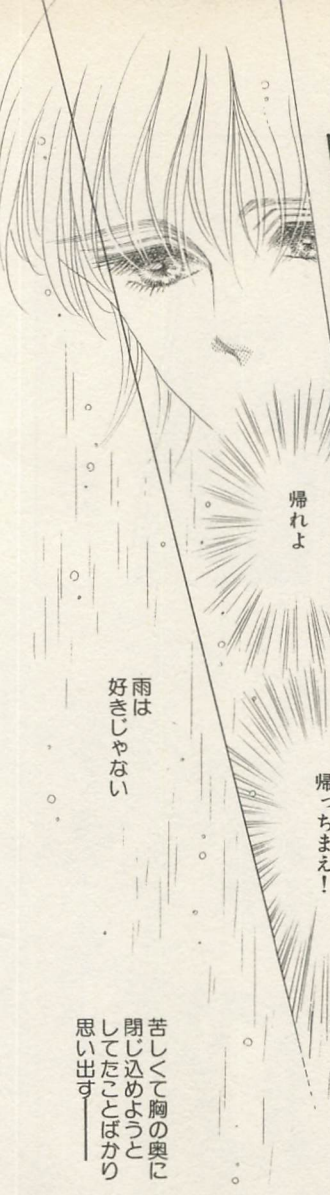
とうの昔に
ジ・エンド!

今は
ロニーだけよ

私を嫌いに
なった?

今でも
彼が好き?



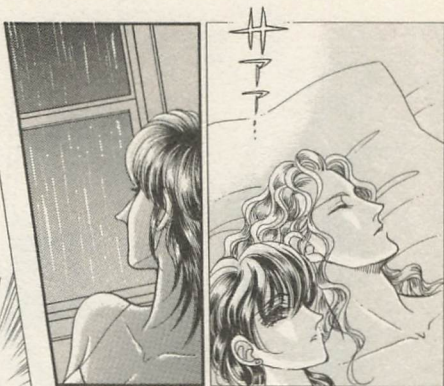


帰れよ

雨は
好きじゃない

日本へ
帰っちゃまえ!

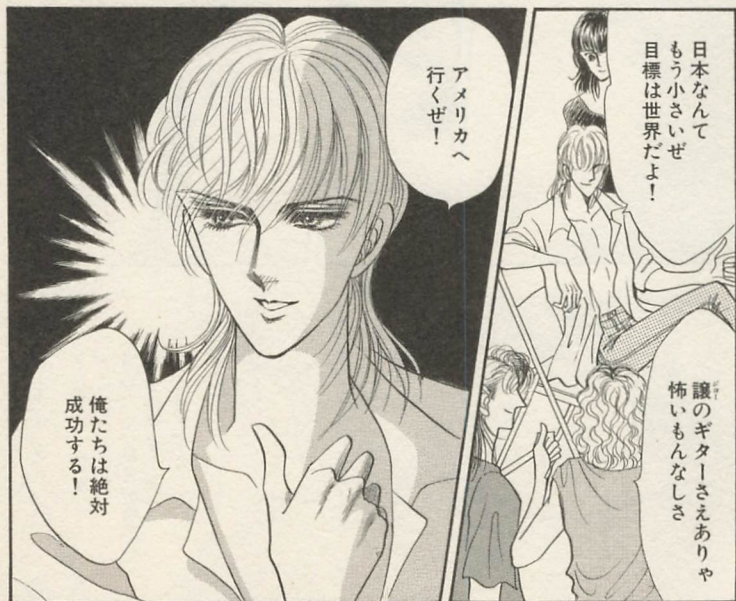
苦しくて胸の奥に
閉じ込めようと
してたことばかり
思い出す――



切れ味のいい
譲のギター

スポットライトと
歓声

何もかもが
うまくいくと
思ってたあのこと





俺の戸籍に
父親の名前は
ないんだ

諷…

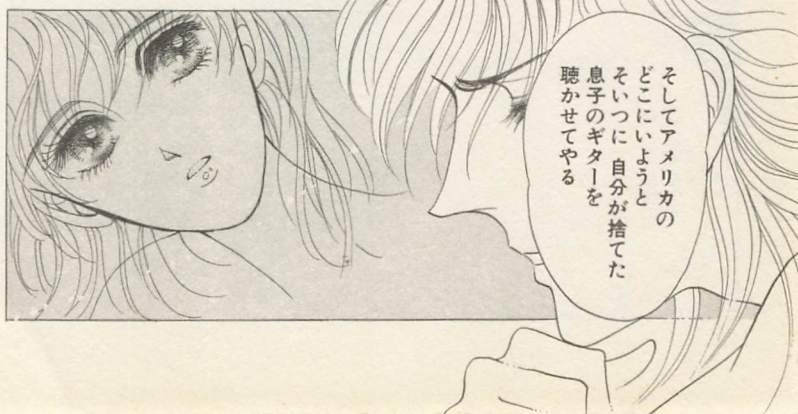
アメリカ人
だったらしい



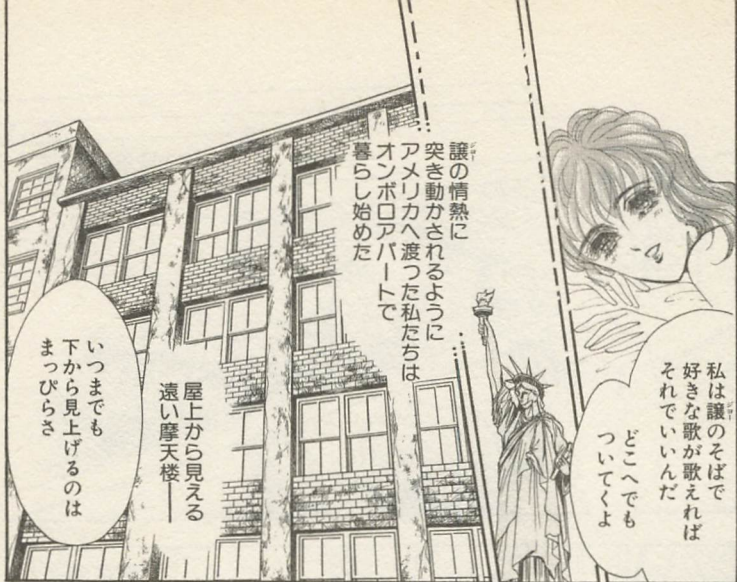
俺は
アメリカへ行く

基地の町に
住んでたオフクロと
ほんの数
日本にきただけの
アメリカ軍人が
出会って
俺が生まれた

男は任期が
終わると
オフクロを捨てて
本国へおサラバさ



そしてアメリカの
どこにしようと
そいつに自分が捨てた
息子のギターを
聴かせてやる



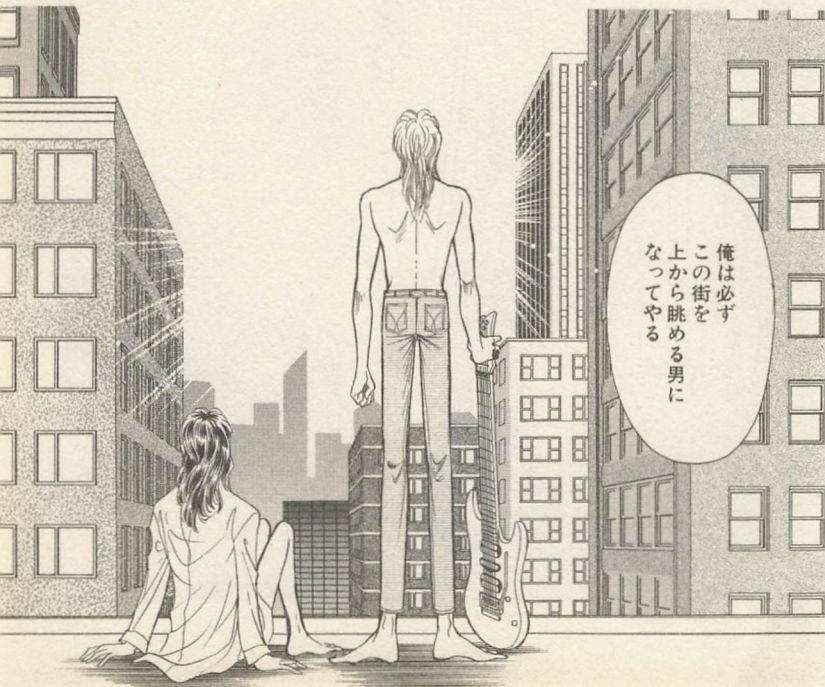
私は譲のそばで
好きな歌が歌えれば
それでいいんだ

どこへでも
ついてくよ

譲の情熱に
突き動かされるように
アメリカへ渡った私たちは
オンボロアパートで
暮らし始めた

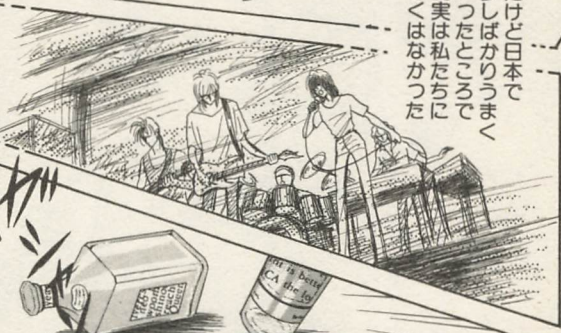
屋上から見える
遠い摩天楼――

いつまでも
下から見上げるのは
まっぴらさ



俺は必ず
この街を
上から眺める男に
なつてやる

だけど日本で
少しばかりうまく
いったところで
現実には私たちに
甘くはなかつた



場末の
ライブハウスで
演奏する毎日
募っていく
いらだち――

ちきしょう！



どだい
ムリだったんだ！
金もコネもない
俺たちがニューヨークへ
来たって！

あっほは…

もう…
終わりだな
俺たち

みんな！



バツカみてエ

いくら
オーデイション
受けたって
落ちるばかりだ



…とうとう

ふたりきりに
なっちゃったね



だったら
やめりゃ
いいだろ！

だれも
止めないぜ
やめちまえ
—！！



譲ゆず！

俺のギターなんか
こんなもんさ
よくわかったろ！

…帰れよ

もうおまえが
そばにいる
必要もない！
おしまいだ！



日本の親から
手紙来てんだろ
戻ってこいって

私は戻る気
ないよ！

帰れよ!

帰っちまえ
日本へ!!

譲!

来るな!

おまえが
消えないなら
俺が出ていく!

何もかも…

終わりにしてやる!

こうして!!

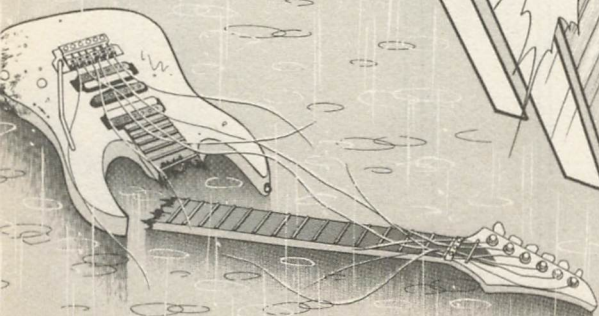
いや!



だめエ

譲…!

やめてエ!



私はまだ譲が
好きなのに……!

私の気持ちだけ
置き去りにして
いかないで!

あれからずっと

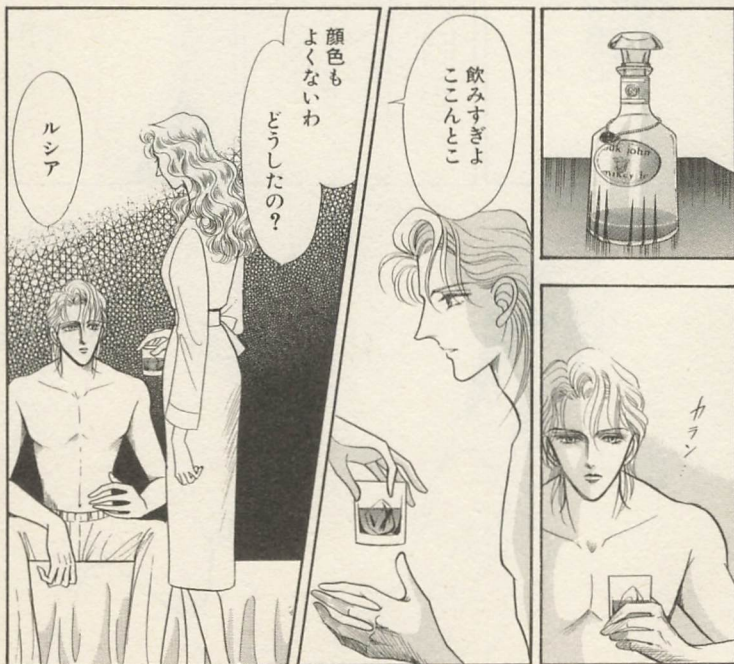
けれど
そのまま譲は
戻って
こなかった

私は好きな歌を
あきらめきれず
歌い続けてきたけれど

ニューヨークの雨は
今も私を
憂鬱にさせる



ニューヨーク ダスト



雨を見てたら
昔を思い出して



眠れなかった
だけさ……

アル中は
ごめんよ
もう二度と……

あんな
ひどい状態の
あなたには
させないわ



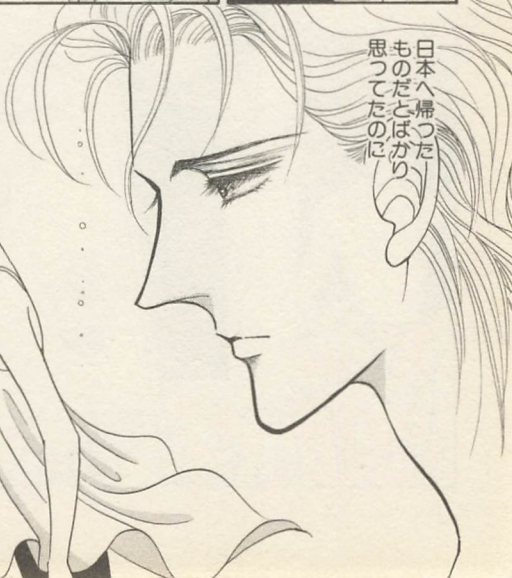
私はずっと
そばにいるから

ああ

5年——

俺が勝手に
あいつを
放り出してから
もう……

日本へ帰つた
ものだとばかり
思つてたのに

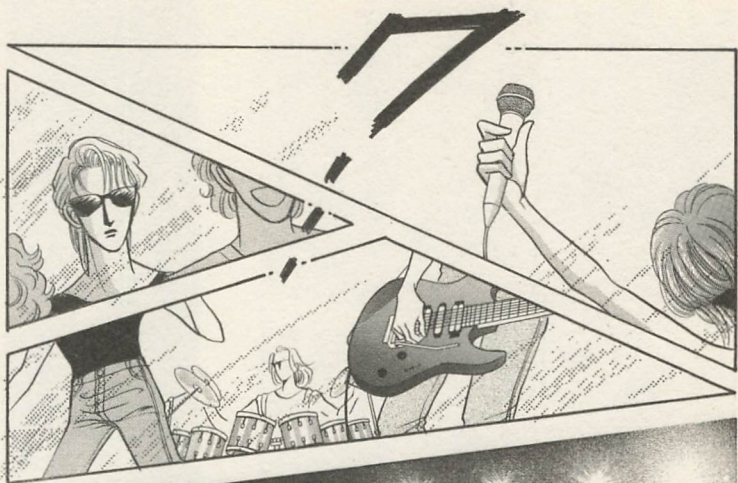


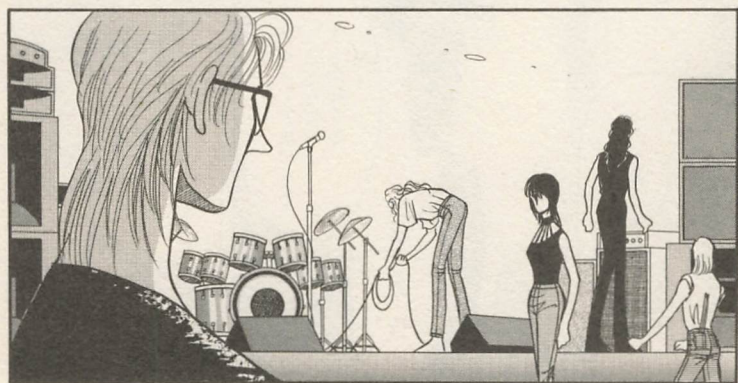
沙紀……

ニューヨーク ダスト



あの日の雨は
今もまだ
降り続いて
いるのか……？







ずっと
ライブスポットで
演ってたのか？



お偉い
プロデューサーが
わざわざ視察？
感想は？



そうよ
このバンドを
組んでからは
演れるところなら
どこへでも行ったわ
東海岸の
ライブハウスを
数え切れないくらい

あなたと違って
私は歌をやめたく
なかったから



デビュー・ツアーを
組んだ
全米各地を
30か所だ

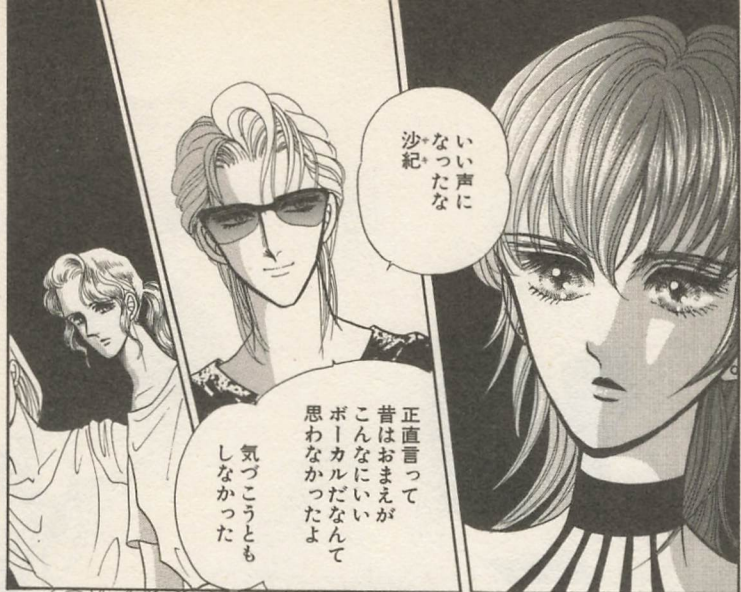
デビューアルバムを
吹き込んだら
すぐ発売する

全米ツアー!?

ツアーのラストは
このニューヨークだ
それまでにどれだけ
化けられるか
試されるってことだ

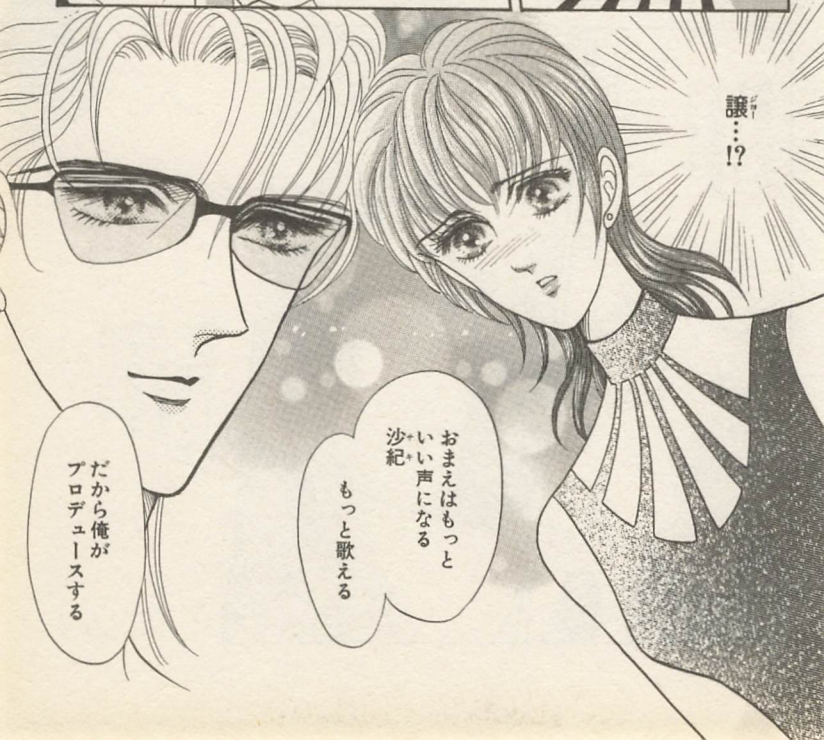


.....



いい声に
なったな
沙紀

正直言つて
昔はおまえが
こんなにいい
ボーカルだなんて
思わなかったよ
気づこうとも
しなかった



譲...!?

おまえはもっと
いい声になる
沙紀

もっと歌える

だから俺が
プロデュースする

なんだか
ずいぶん
変わった

…譲…

これが
5年の年月
—てこと…

まあ
もつとも
バックしだいって
とこだがな

特にギター

とりあえず
今月中に20曲
レコーディング用の曲を
用意してくれ

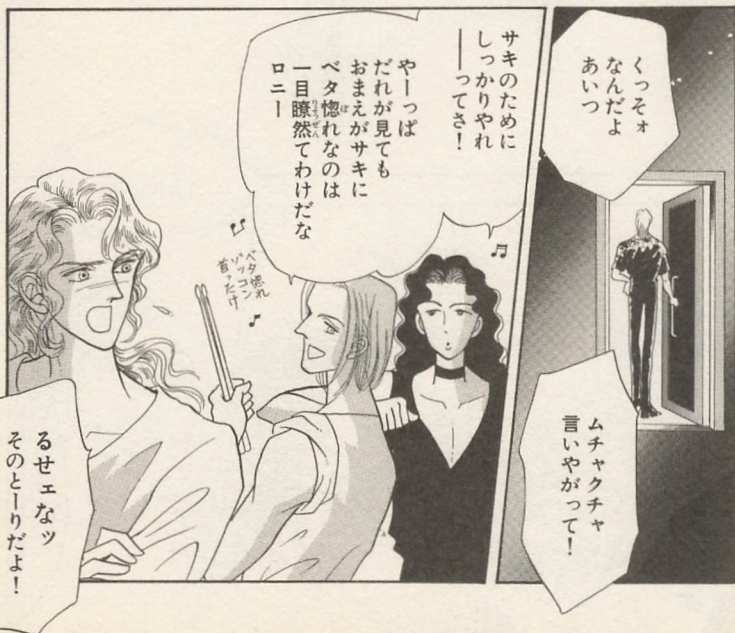
どーいう…

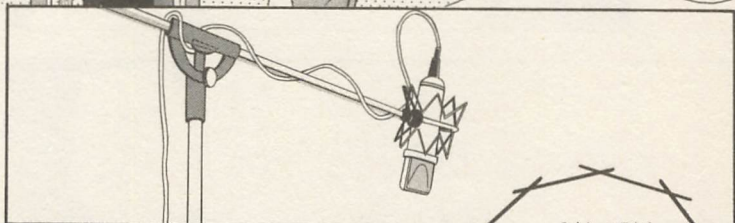
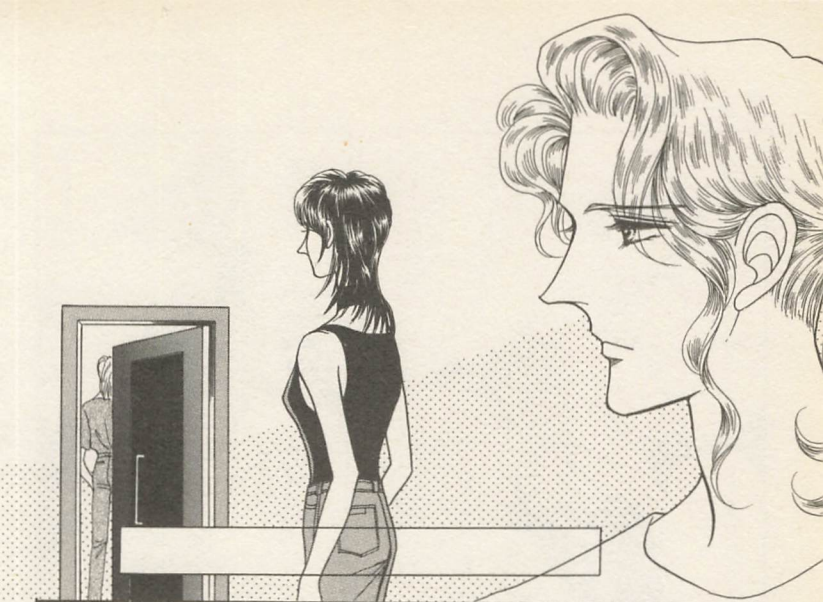
沙紀を
生かしたかったら
もつとしつかりやれ

昔はいつも
周田に刃物を
向けてるみたいに
ビリビリしてた
あなたが—

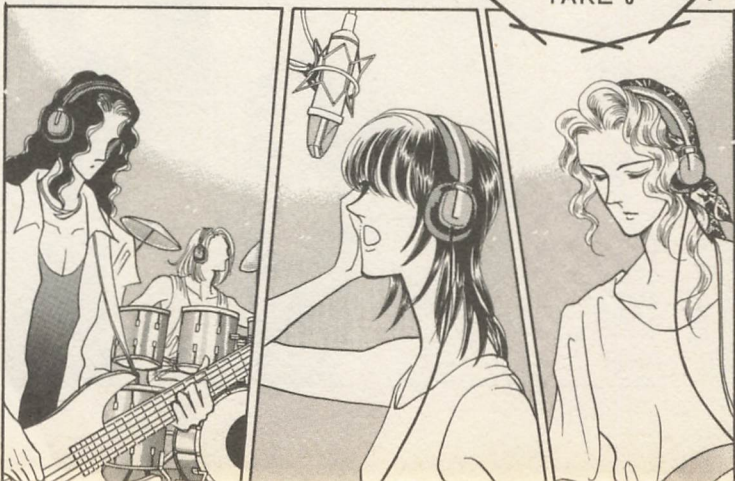


ニューヨーク ダスト

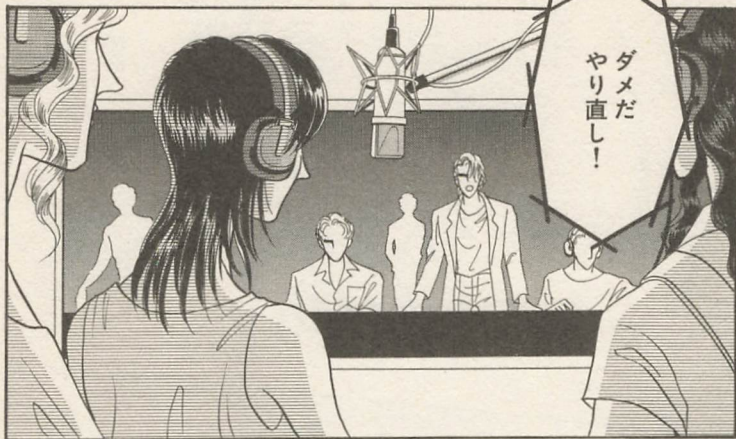




ナイク ファイト
TAKE 5




ニューヨーク ダスト






いい声に
なったな
沙紀

おまえは
もっと歌える
もっといい声になる



あそこで
見てるのは
私を捨てた男

とうに
終わった恋



憎みこそすれ
ときめくはずも
ないのに――

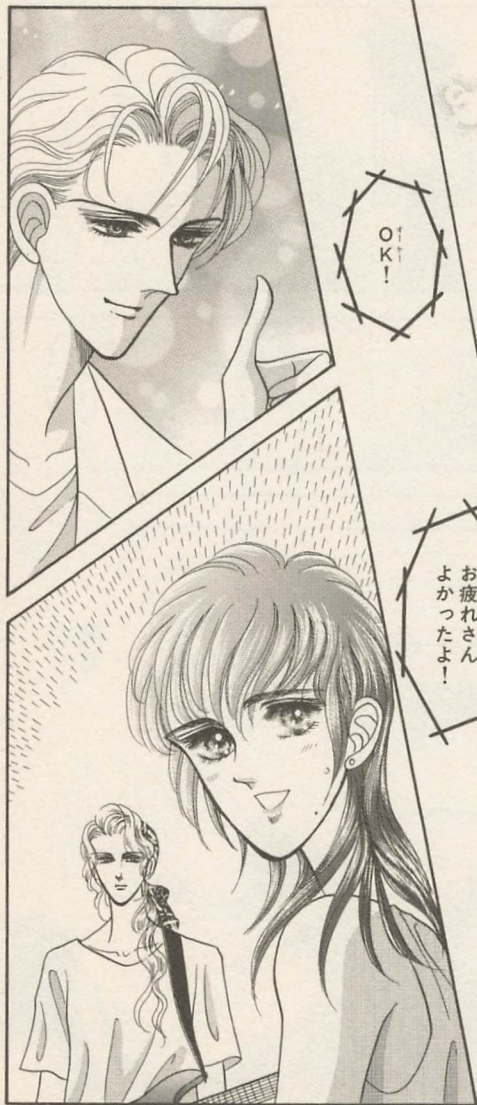
譲の視線が
言葉が

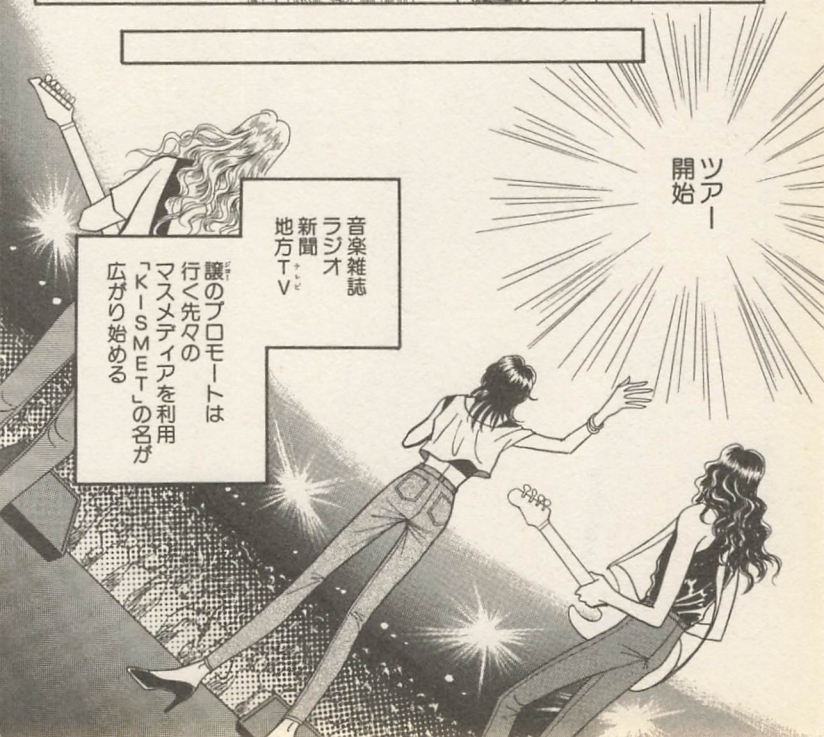
思っても
みなかつたほど

心地いい——

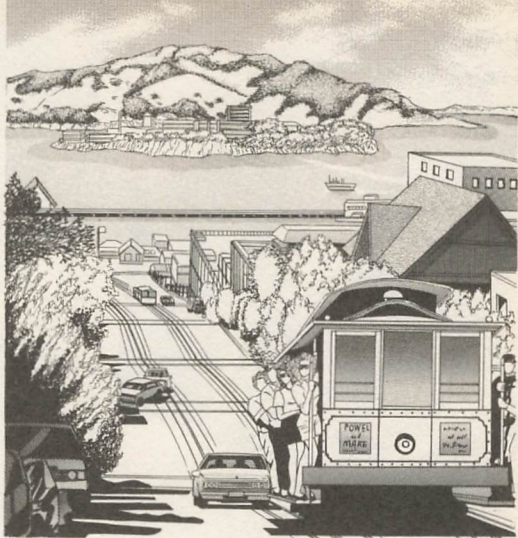
OK!

お疲れさん
よかったよ!





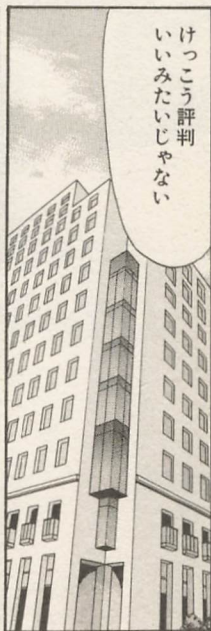




様子を
見に来たのよ



…その顔じゃ
満足してないのね



けっこう評判
いいみたいじゃない



ねえ
瘦せたわよ

ちゃんと
食べてる？

ふん
やつれもするさ

ニューヨーク ダスト





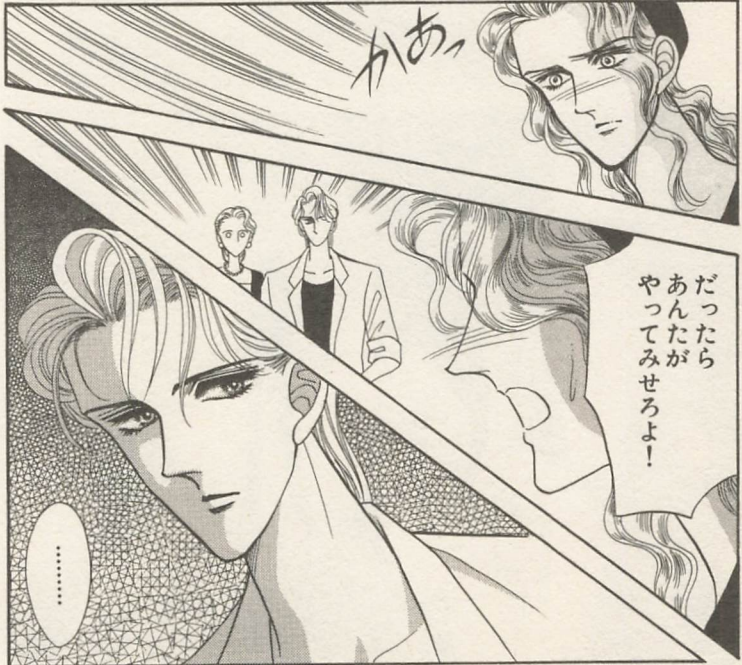
今以上に
沙紀の声を
引き出すのは
ムリだ

おまえのギターじゃ
沙紀を
歌わせられない



俺がサキの
殺してるって
いうのか!?

少なくとも
生かしているようにや
聴こえないね

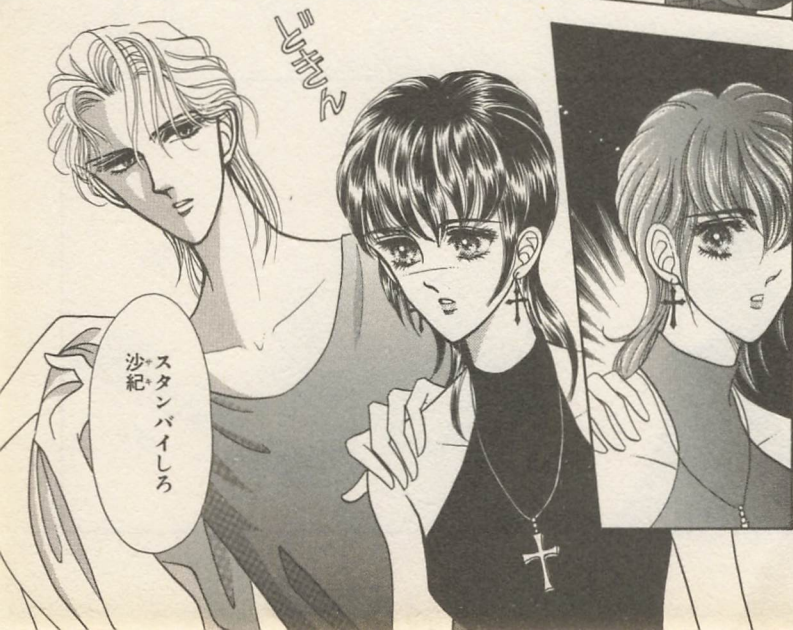
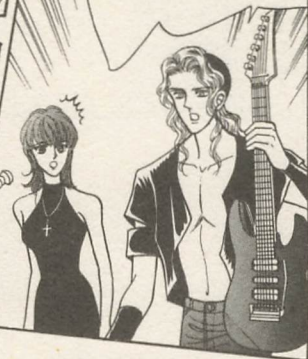
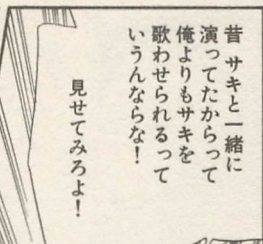
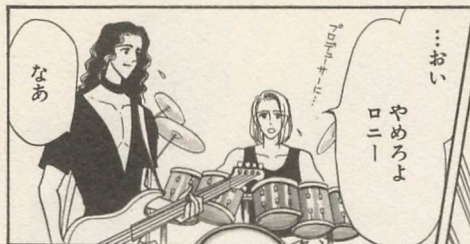


かあ

だったら
あんたが
やってみせろよ!

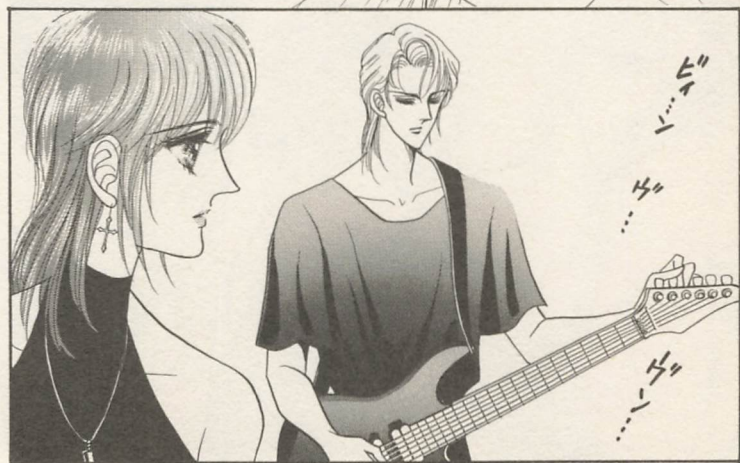
.....

ニューヨーク ダスト





譲……





静かに背中を
押されたような
気がした

一瞬



曲は
アップテンポ
なのに



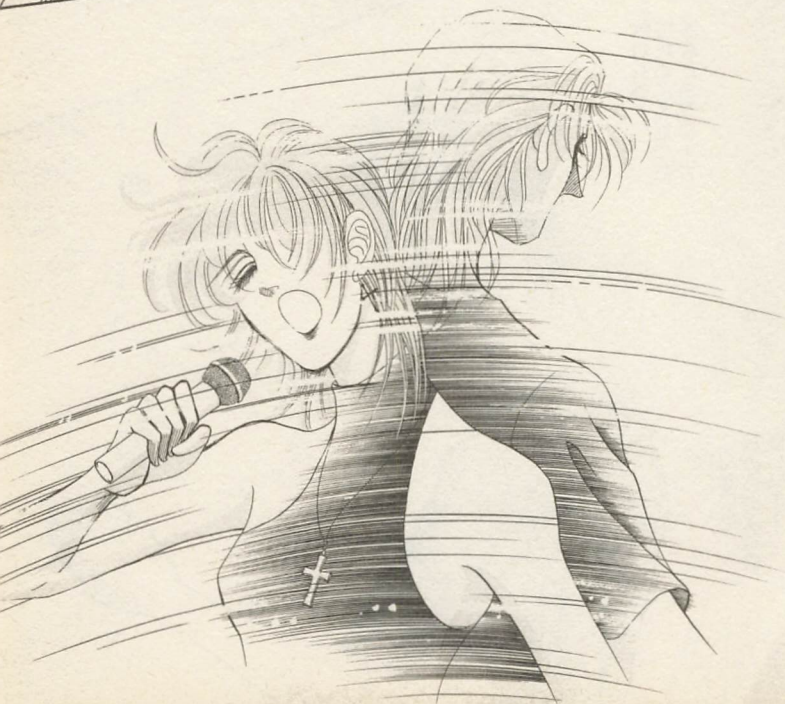
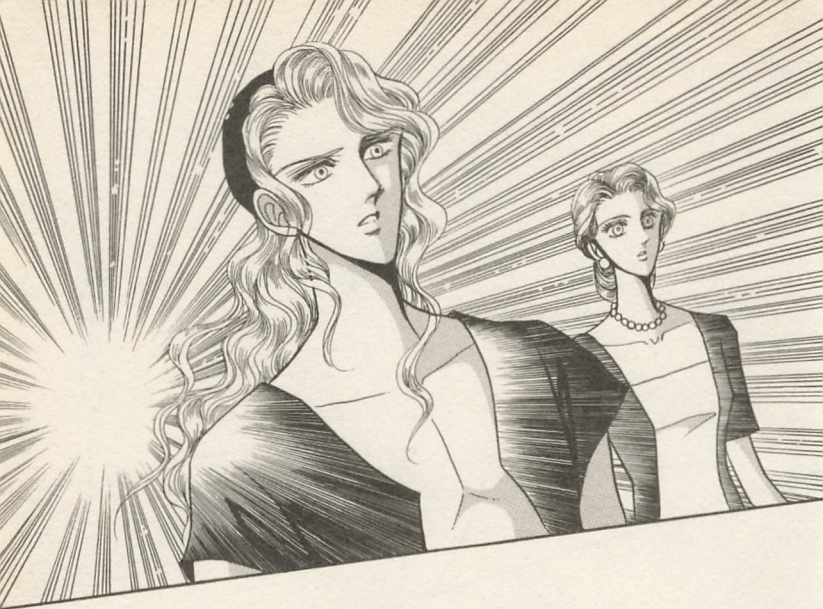
声が
押し出されてく
みたいー


ギターの音に

あゝあゝ...


身体からだの
奥の奥から







—気持ちいい……!!



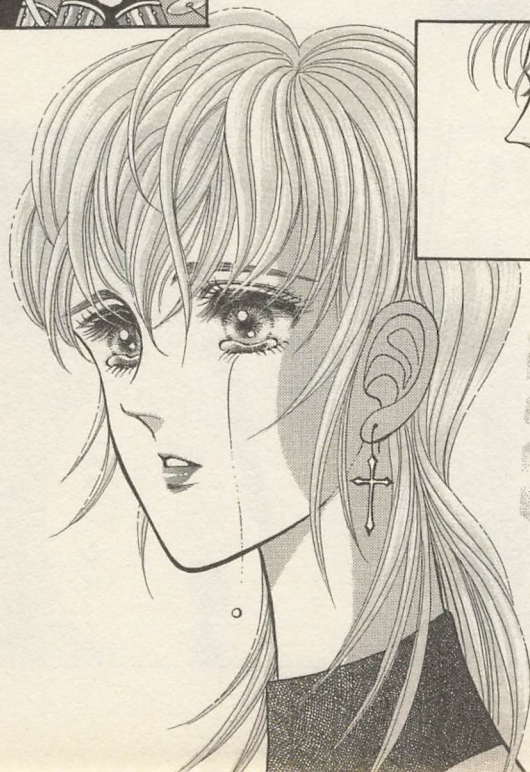
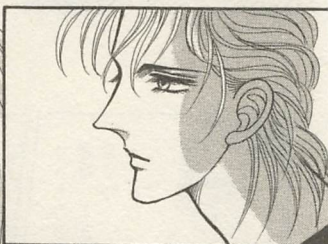
触れれば
切れるようだった
あなたのギターが

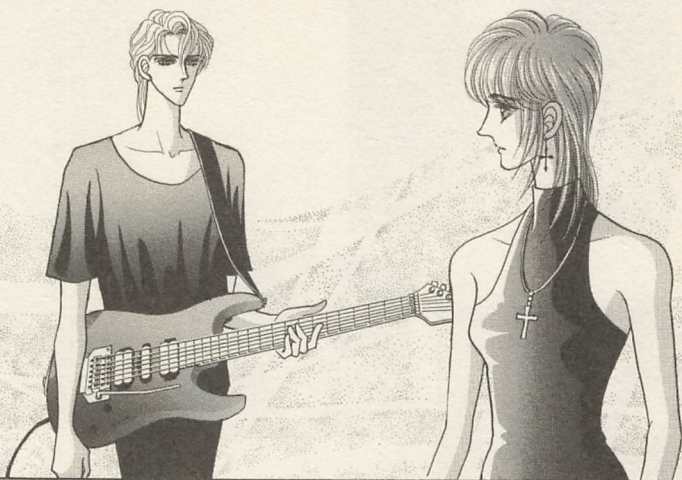
譲

今は
こんなにも
包み込むように
優しい——




私にこんな声が出せるなんて






ニューヨーク ダスト






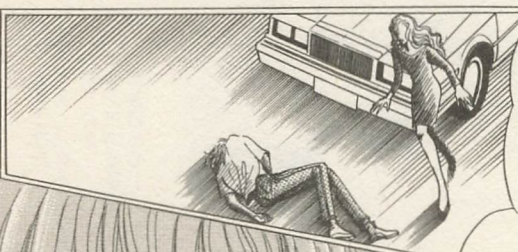
手のつけられない
アル中になつたうえ
薬にも溺れて…




あのまま
死んでも
おかしく
なかつたな



沙紀と別れた
あとの俺は
ポロポロに
なっちまうまで
歯止めが
きかなかつたよ



ふらついて
ルシアの車に
轢かれたときは
もう廃人の
一歩手前だった



今でも
そのころのことは
あまり覚えて
ないくらい――

そのまま
ルシアが面倒
見てくれて

あなたは
弟に似てる

あなたと同じ
薬中毒で死んだ…

単なる同情
だったんだろう

…けれど俺は
命を取りとめて

いつからか
ルシアと
暮らし始めてた

おちこぼれ
ミュージシャンの俺が
どうにか
ルシアの会社で
働き始めて…

今じゃ他人ひとから
大物扱いされる
プロデューサーさ
笑っちゃうよな



ずっと…

ギターを捨てた
俺にはもう
どうでもいいこと
みたいなの
気がしてたよ

おまえと
再会するまでは

沙紀



俺はどうしても
おまえを
みんなが注目する
スターにしたいんだ



それに



…いや

…俺は



沙紀には沙紀の
5年があったのに

まったくだよな…



——勝手
なんだから
本当に…

5年前も
今度も！



そしたら
ある日ロニーが
現れて

私は
！

私は
ひとりになっても
あきらめきれなくて…


死にたいほど
悲しかったけど
歌いたい自分も
捨てきれなくて…

脱け殻かぶみたいになっ
て毎日
過ごしてた——

捜したよ


君のバンド
解散したんだって？





俺はロニー
よかったら
俺のバンドへ
来ないか？

君の声は
人の胸を打つよ



差し出された手は
私を求めてくれてる

歌えるんだ


そう思ったら
二度と孤独に
なりたくなくて
その手に
すがってたの



ロニーは
いい男で

毎日
愛してるって
言ってくれて

私たち
それからずっと
一緒に暮らしてる



「KISSMET」が
私を救ってくれて

そしてまた
あなたと
会わせてくれた



これも
運命…

かしらね



…譲

私
本当はね…

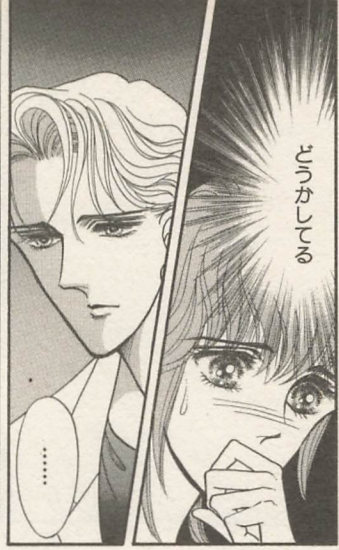
今日あなたの
ギターで
歌ったとき

震えるほど
うれしかった

本当は
5年間ずっと
あなたのギターで
歌いたかった…!!



どうかしてる



今夜のライブだつて

きつとロニーは
私のこんな気持ちに
気づいてしまったから
なのに……!



「KISSMET」の
ギタリストは
ロニーで
譲じやない

何を血迷つてるの
私は——
今は残りの
ツアーのこと
考えなきゃ……

先に部屋へ
戻るわ

おやすみ

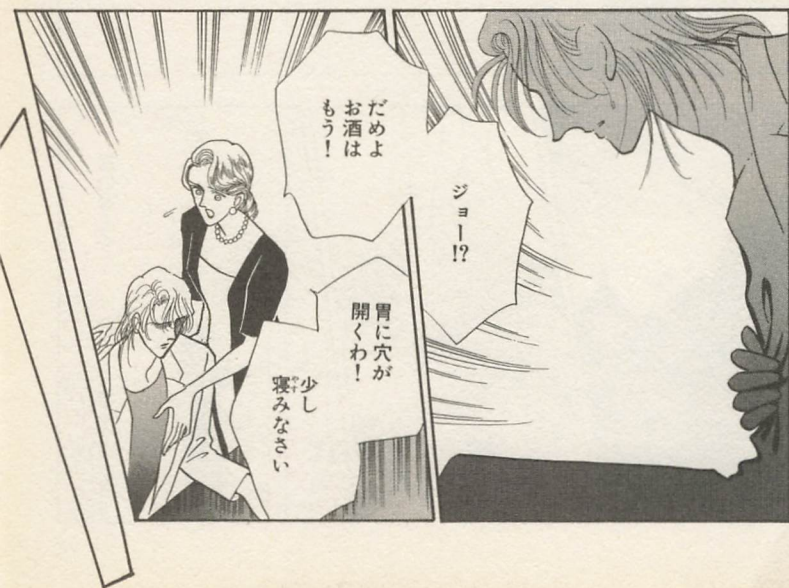
カタン……

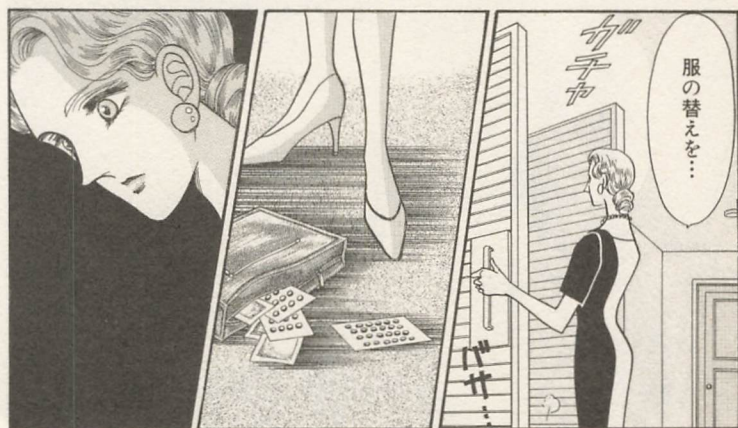


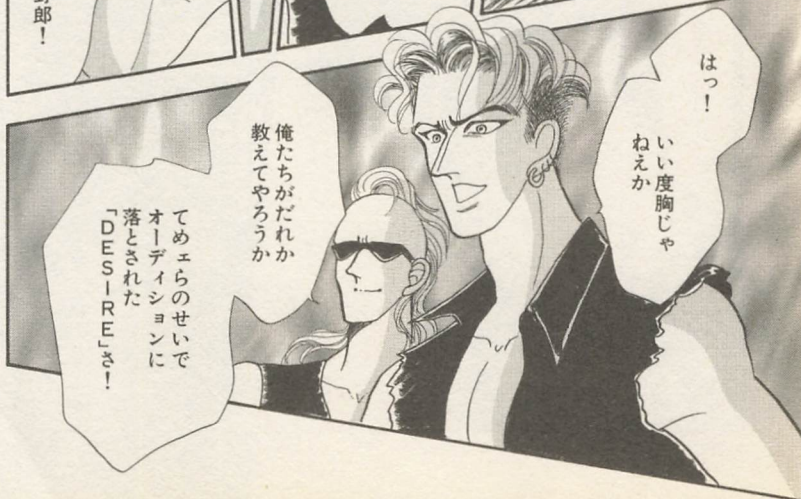
……

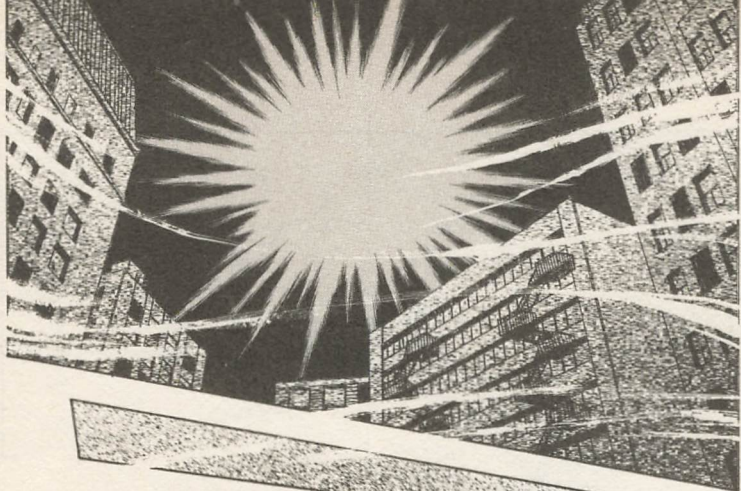


ニューヨーク ダスト



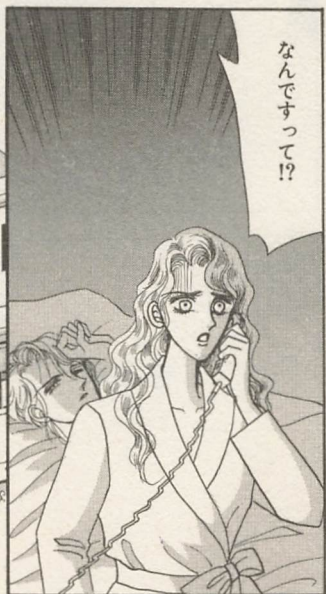




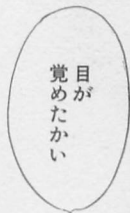


ケンカで
全治3週間だと

たいした
ギタリストだ

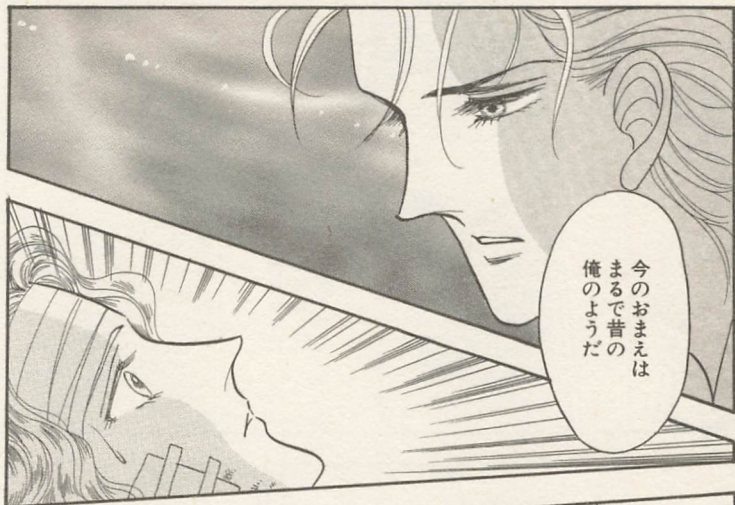


なんですって!?



ニューヨーク ダスト





今のおまえは
まるで昔の
俺のようだ

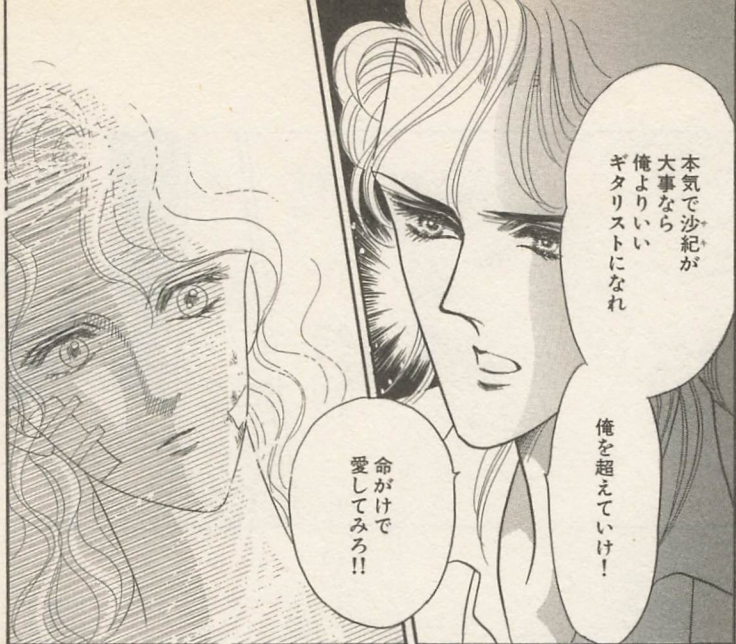


大きくて
どうにも
ならない物に
イライラして

いじけて
当たり散らす

ただのガキだ!

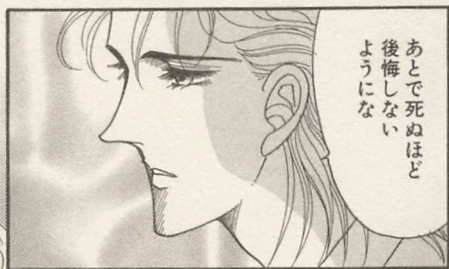
おまえの
沙紀への
気持ちは
そんなも
んなのか?



本気で沙紀が
大事なら
俺よりいい
ギタリストになれ

俺を超えていけ！

命がけで
愛してみろ！！



あとで死ぬほど
後悔しない
ようにない

……ためさ



……

サキは今も
あんたが
好きなんだ

そして
あんただって……

…もう
終わった恋だ

違う！

それは
違う！

捨てたのは
あなたのほう
だけだ！

サキは一度も
あなたを
捨ててない…！

…あなたがサキを
置き去りにした
だけだ…！

だから

サキの心は
ずっとあなたを
待っていた—

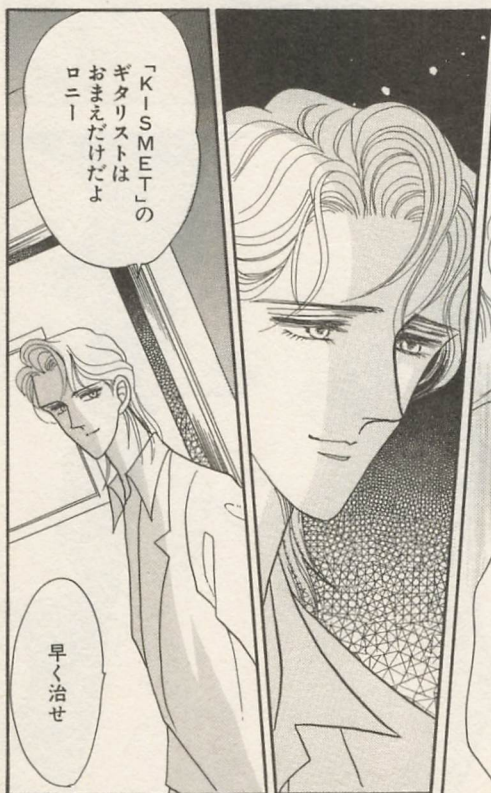
ずっと
今でも…！

ニューヨーク ダスト



あんただって
サキを愛して
くせに……!

どうして
あんたが
サキを守ろうと
しないんだよ!



「KISMET」の
ギタリストは
おまえだけだよ
ロニー

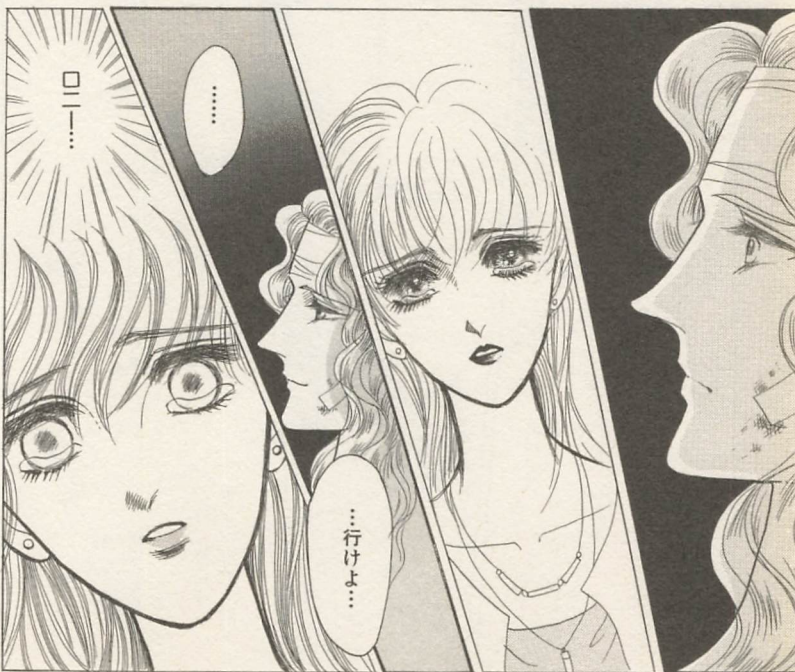
早く治せ

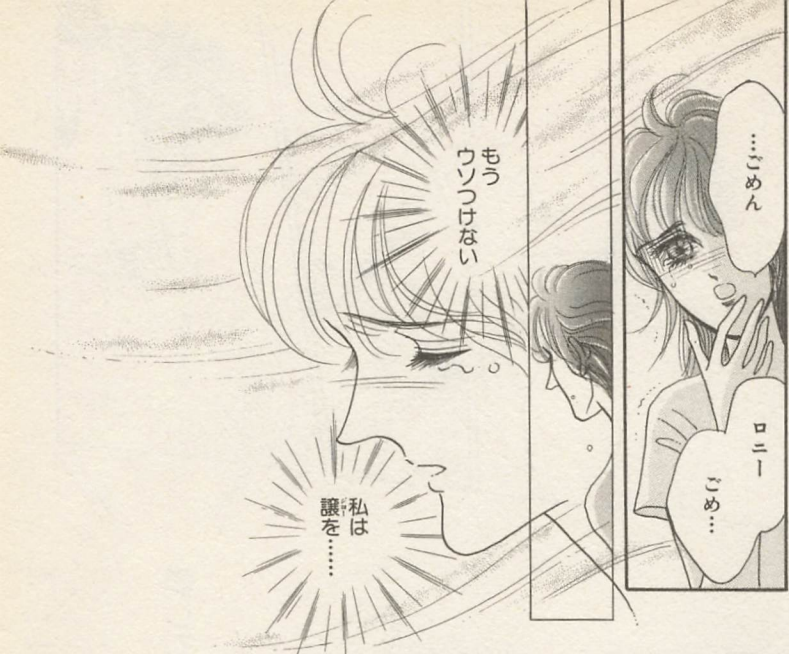
俺はサキが
好きだよ

体中バラバラに
なりそうなくらい

あいつを
愛してる!

だけど俺じゃ
ダメなんだ……!!





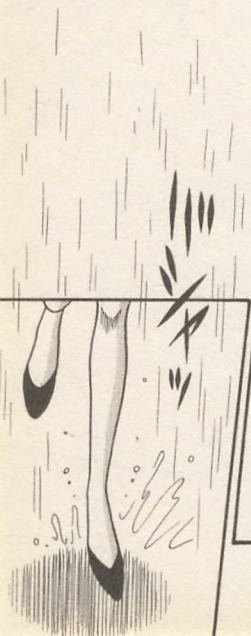
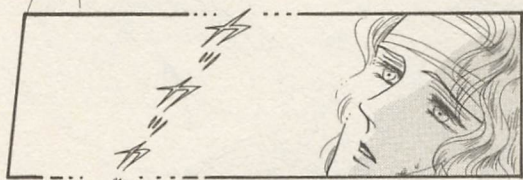
もう
ウソつけない

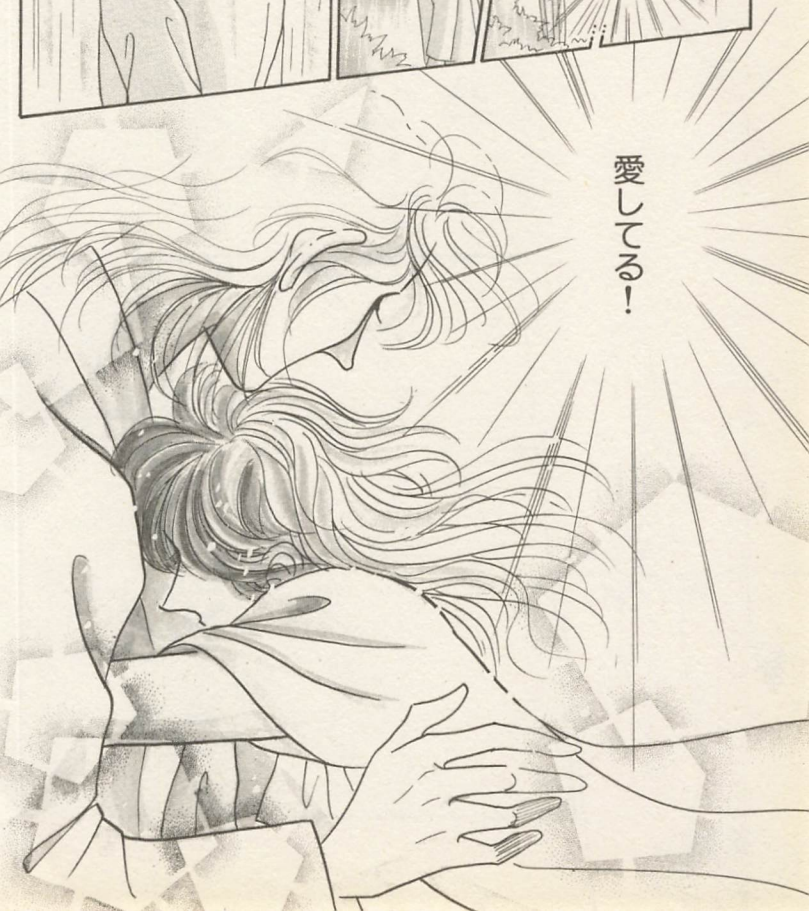
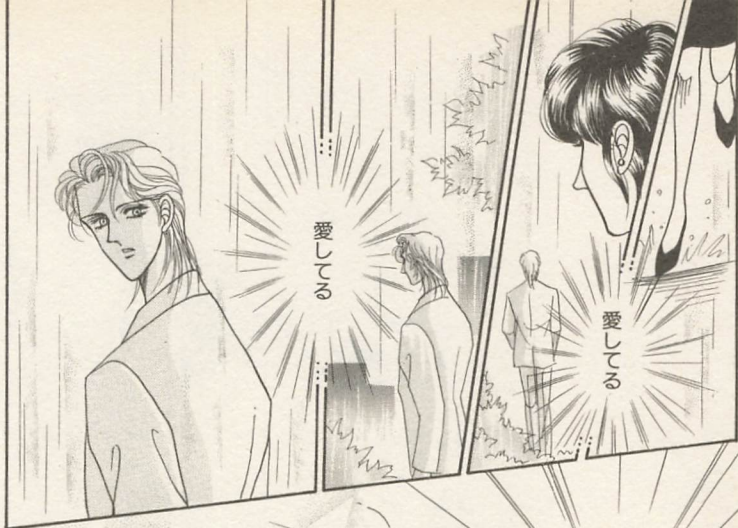
...ごめん

ロニー

ごめ...

私は譲を...







—もう一度…

あの雨の日から
やり直すことが
できるなら…

…愛してるよ

沙紀…

ずっと
愛してた…

求め合ってた…!!



ニューヨーク ダスト



ロニー

ギターを
教えて
ほしいんだ



…望むところさ



今のあなたには
かなわないけど

ギターも
…サキも

いつか必ず
追い抜いて
サキを
奪い返しに行くぜ

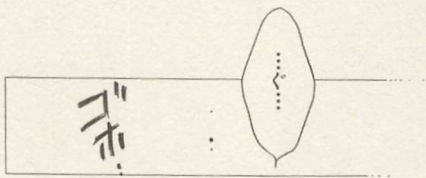
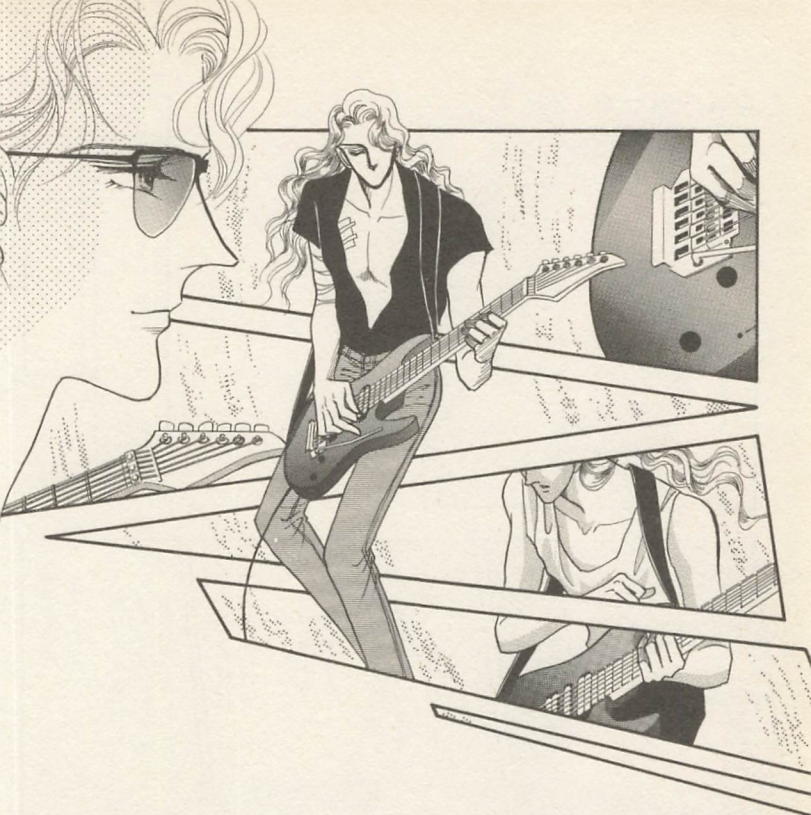
覚悟
してろよ



勝手に退院
してきたよ

腕は大丈夫だし
少しくらいのケガ
もう平気さ

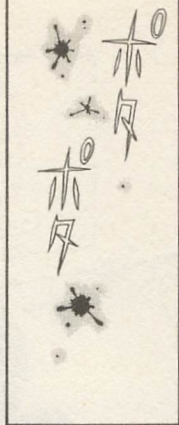
ツアーを再開
してくれ



ゴキウ



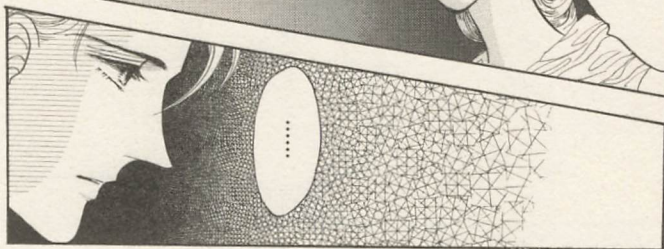
ニューヨーク ダスト



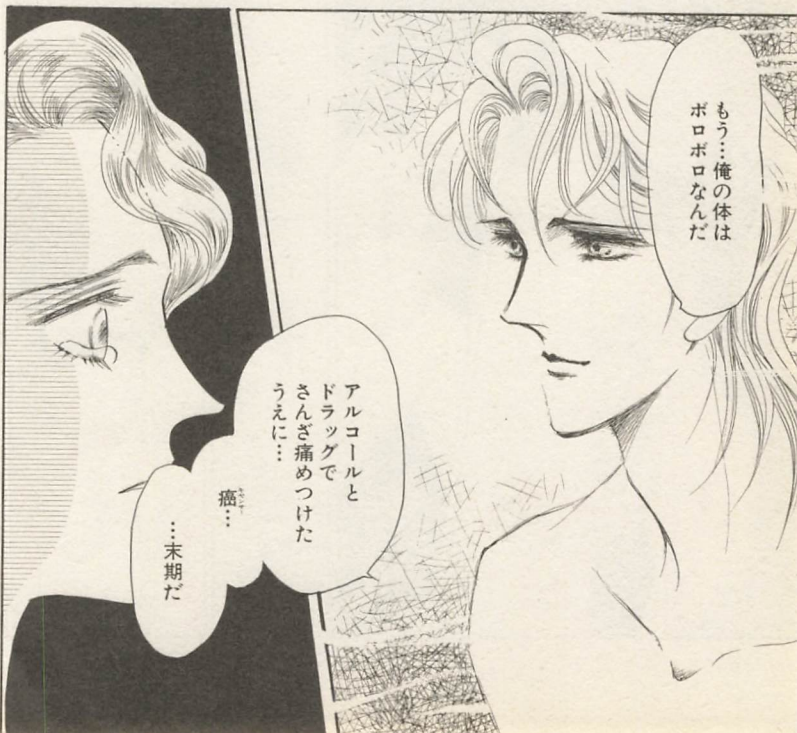


ニューヨークの：
あなたの行きつけの
ドクターに
聞いたの：

ジョー…!?



……



もう…俺の体は
ポロポロなんだ

アルコールと
ドラッグで
さんざ痛めつけた
うえに…

癌…

…末期だ

…ばかね…

今まで
黙って…

だれにも
言わずに…

彼女の
ために—

なんて
ばかな人…

沙紀を…

守りたかった

それが
できないなら
せめて…

俺の力であいつが
飛び立てる
ところまで……

…愛してる

俺は沙紀を
ずっと愛してた…

愛し続けてた

だから
「KISMET」に

沙紀の中に
俺の音を
残したい…

そうすれば
あいつの中で
俺はずっと
生き続けられる

そう思っ—



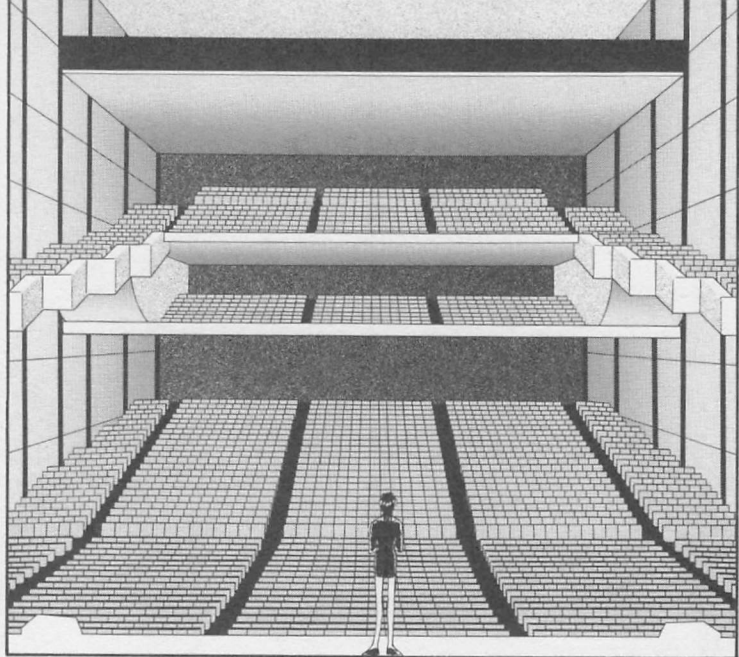
…いいわ

わかったわ

もう何も
言わないで

ニューヨーク







大丈夫
この俺が
プロデュース
したんだぞ
自信を持って

うん



俺は
気が長いんだ

頑張って…



妬ける？

あきらめが悪いと
言われても
俺はずっとサキの
そばにいる

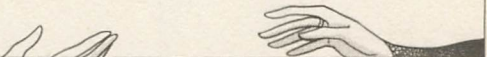
サキがもう一度
あいつと別れるまで
待つよ

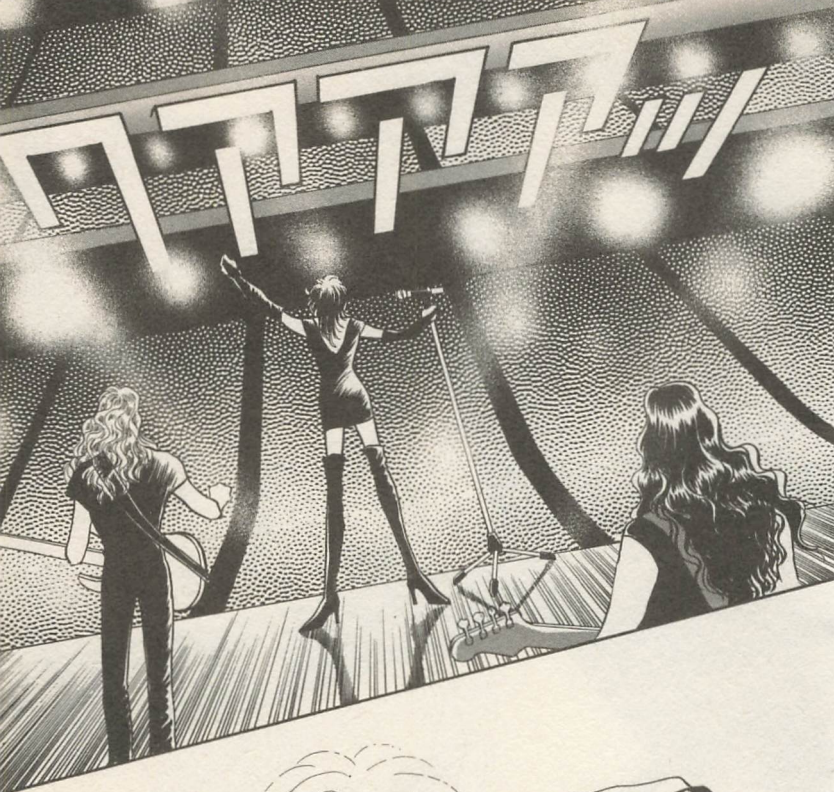
…そりやね

でも

…頑張って

ファイナル
コンサートが
始まる—







「KISSMET」を
5か月で
ここまでにしたのよ
…ジョー…あなたが



大丈夫？
苦しそうね
待ってて
薬を持ってくるわ

…ああ



沙紀……



このままずっと
おまえの声を
聴いていたいよ





…沙紀…

ツアーが終わったら
私たち一から
始めよう





ごめんな
沙紀

守れない約束
しちまつて…

もう一度
おまえと一緒に
屋上へ登って

今度こそ
摩天楼を
見下ろしたかったな……

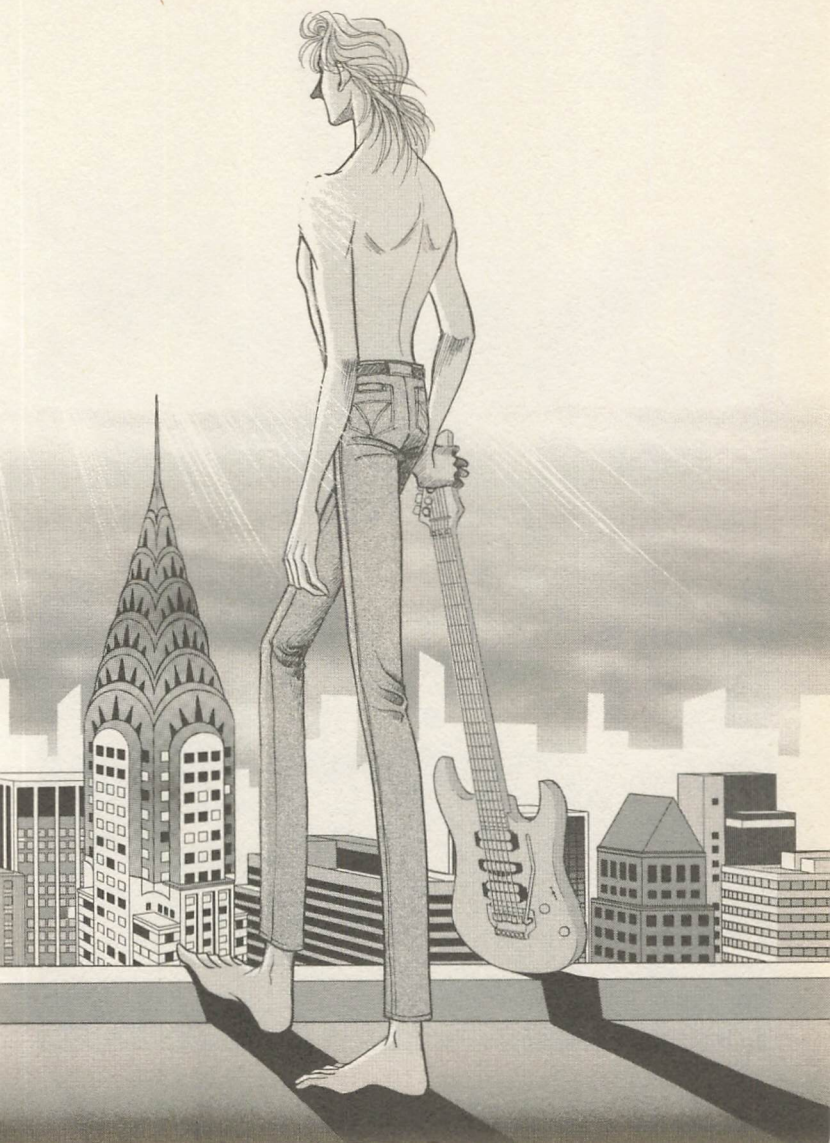


譲...

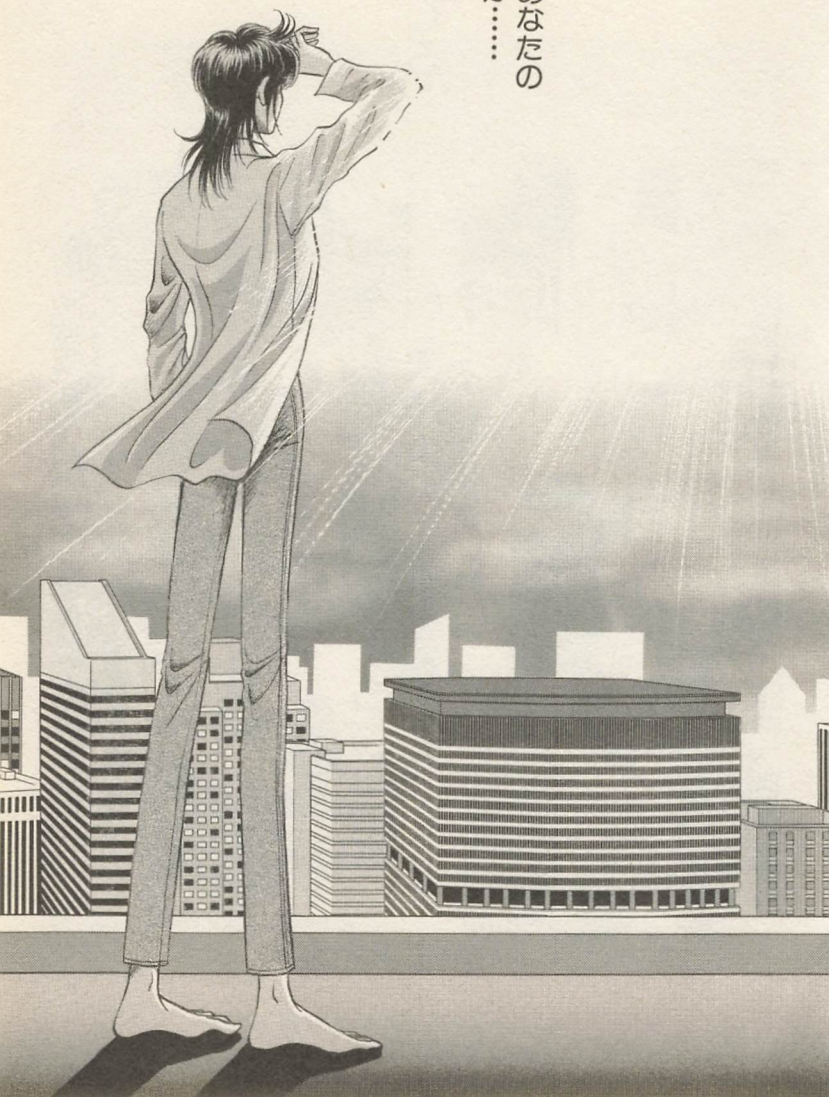
この歓声を全部
あなたへ送りたい

ようやく
始まるのよ





私とあなたの
物語が……



愛してゐる……



〈ニューヨーク ダスト〉*おわり*
1994年プチコミック10月号に掲載